



皇學館

学園報 第64号

発行・編集
学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 大学院 専攻科 〒516-8555
文学部 教育学部 三重県伊勢市神田久志本町1704
現代日本社会学部 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704
高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

地(知)の拠点

文科省の大学COC事業に採択された「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる地域人材育成事業。八月二十二日から二十六日にかけて、三市五町の圏域をフィールドに自治体職員や住民とともに地域の社会サービス等を経験する三年生対象のカリキュラム「伊勢志摩共生学実習(地域インターンシップ)」の一つが玉城町で行われ、本学国文学科三年の和波厚樹君、福岡孝太君、村松那奈枝さんの三名が参加した。

地(知)のつながりを実習で体感

伊勢志摩共生学実習(地域インターンシップ)・玉城町



新米の水分量を量る福岡君(左)。農業体験に奮闘する和波君(右上)。ふるさと味工房アグリで店長に説明を受ける村松さん(右下)

現場の生の声を聞き、五感で学ぶ

人口約一万五千人の玉城町。平成二十七年国勢調査によると伊勢志摩地域六市町で唯一人口が増加しており、増加率は県内四位だ。

今回の実習先の一つ、「玉城ふれあい農園」は緑豊かな田畑に囲まれた場所にある。八月二十三日午前九時、三十キロの新米が詰まった米袋を額に

汗して運ぶ和波君の姿があった。同農園代表の野口長一さんはいう。「机上では現場の苦労も面白さもわからんやろ。行政の職員をめざすんやったら、一緒に汗をかいて農家の気持ち、生の声を吸い上げたうえで方策を立ててもらわんと」。同農園は立ったままマイチゴ狩りができる観光スポットとしても人気だ。一方で「肥料のにおいや音への苦情はうちにじやなく、役場にいく。役場も大変や」と野口さんは話し、玉城町総合戦略課の中川泰成係長も「玉城町は転入してきた人が多いでな」と、価値観や考え方が多様化する中で、のまづくりの難しさを語る。

「JA伊勢玉城西ライ

スセンター」で新米の水分量を量る体験をしたのは福岡君だ。福岡君は「お米が収穫されてから食卓に上るまでにこんなに多くの作業があり、大勢の人が手をかけていることに驚いた」と話し、「ご飯のありがたみが増した。実家のある大台町のお茶もどのような工程をたどっているのか、調べてみたい」と語った。「ふるさと味工房アグリ」で販売スタッフ体験に就いたのは村松さん。村松さんは「休耕田にひまわりを植えて鑑賞スポットにした、そのひまわりから油をとって商品化したりと、資源を生かしているアイデ



三重県知事、玉城町長、東大生らの記念撮影

対話で地域課題の解決を

伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライを考え合うシンポジウム vol.2

九月四日、大学COC事業公開シンポジウムが志摩市磯部生涯学習センターで行われた。高校生から社会人まで一〇七名が参加。対話による地域課題の解決策を探った。シンポジウムは三部構成で実施。一部は志摩市・大口秀和市長からの挨拶や本学教員によるCOCの概要、進捗説明、昨年度行った伊勢志摩地域の定住に関する調査の結果報告など。二部は伊勢志

摩圏域の若手自治体職員八名、地域おこし協力隊一名、大学生四名、高校生二名が登壇してフューチャーセッションを実施した。最も関心を集めたテーマは「仕事」。登壇者らは「仕事のミライ」について感じるキーワードをフリップに掲げ、本学のファシリテーターがそれぞれの意見を引き出した。若手職員は「県内の職業の選択肢の少なさ」を指摘。地元でも働きや



活発な意見交換がなされた

すい環境づくりの重要性を語った。一方、地域おこし協力隊として東京から移住し海女業に携わる上田桃子さんは「伊勢志

摩の豊かな資源は魅力的。それを生かす新たな仕事にも目を向けては」と語った。大学生は「都会への憧れなど住む場所での進学先を選ぶ人が多い。歴史、文化などの資源に触れ、地元の誇りに感じられる教育があれば、地元に残る若者も増えると思う」と話し、会場からも「今、仕事の『やりがい』に価値を感じる若者が増えている」などの意見が相次いだ。

齋藤平教育開発センター長は「CLL活動は昨年度七活動(約五十名参加)に対し、今年度は十四活動(約百名参加)と活発化している。学生の関心の高まりに比例し、地域から持ち込まれる課題も増えてきた。今回登壇した本学学生も地域での学びを生かした発言が多く、成果は着実に出てい」とした。登壇した渡部美帆さん(国文三年)は「市町の職員の方と意見交換でき、貴重な体験になった。地域に関心がない学生にも、地域活動の魅力伝えていきたい」と今後の目標を語った。

今回の体験実習は東京大学の学生チームと合同で行われた。玉城町では東大大学院が開発したオンデマンド交通システム「元氣バス」を運行しており、その縁で平成二十五年から東大生による体験プログラムを受け入れている。合同で行うことを提案した池山敦教育開発センター助教はその狙いについて「同じ世代でも都会から見た地方、地方から見た地方と、それぞれ視点が違う。いろんな立場の人とコミュニケーションをとり、視野を広げてほしい」と話す。実際、東大の学生チームか

さ」について深く共感した様子で、村松さんは「近所のおばあさんを二、三日見かけず、心配で様子を見に行ったら倒れている

東大生との合同体験プログラム

らは「行く先々で誰かの親戚や知り合いがいて、

スマホを使ってレポート提出

術も磨ける。

体験実習を通して五感で現場を学び、アクティブラーニングの実践で知識・技能を確実に習得——本学では圏域との連携を一層深めながら、地域に貢献できる人材の育成を着実に推し進めている。

1 クリック リモコン型の回答用端末。2 marabafolio レポートや日報など学修の成果物がシステムに蓄積されるポートフォリオを提供する教育支援システム。自らの学びの振り返りや自己理解に活用する。



アップル社が新しい携帯電話を発表し、それにSuica機能が搭載されるということと話題になった。Suicaは平成二十六年一月末現在で四五七万枚(JR東日本HPより)で最大のシェアをもつ交通系ICカードだ。最近、旅先でもこうしたICカードを使う機会が多くなった。券売機に並んで運賃表を眺める必要も、バスで小銭を用意する必要もないからだ。全国型だからといってそのICカードが必ずしも全国で使えるとは限らないが、広島電鉄などでは乗客の利便性を考慮して隣接するICOCAだけを使えるといった工夫をしている。▼性能は同じで、設置された背景も同じなのに、互換性を持たないカードは地域でしか通用しない。那覇のゆいレールのように全国からの観光客が利用するのに独自のOKIKAしか使えないというのは何とももったいない話だ。▼そう考えると、やはり、互換性のある汎用的能力の高い人材育成というのも大切だと感じさせられる。本学園には特色をもったニーズもシーズもある。今後、必要なのは、それらを有機的に結びつける対話だろう。輪が広がることに期待したい。

CLL活動レポート

「林業」を知ってもらいたい

皇學館みらい対話団 塩谷友香
(国文2年)



林業の活性化をめざし、国産材の可能性を広げることを目的に立ち上げられた「大紀町木のおもちゃプロジェクト」

私はCLL活動の「皇學館みらい対話団」に所属しています。その活動を行う中でさらに深く三重について知りたいと思い、「大紀町木のおもちゃプロジェクト」に参加しました。

最初に行われた事前学習会では三重の森林や林業を舞台に撮影された映画を鑑賞しました。そこで初めて林業という職の大きさと地方と都市部における職業の違いに気がかされました。

そして、九月十二日には大紀町で古くから林業を営まれている、吉田本家山林部の代表・吉田正木さんのご案内で山林を歩き、座学と林業体験をさせていただきました。自分の足で山林を歩いてみると、雨のせいもあるのか予想以上に体力を消耗し、山の中の車での移動も、慣れている人であれば運転できるものではないと感じました。また、吉田さんから伺う話は初めて知ることばかりで、とても新鮮でした。

例えば、山林の所有は「国有林」と「民有林」に分けられますが、一般の方が所有する山林のほか、県や市町村が所有するものも「民有林」に区別されます。三重県は江戸時代から山林の私有が進み各地に比較的大きな面積を所有する林家が多く残っているそうです。江戸時代、火事が起きた時は焼け跡に新たな木を植えるなど自分のものとして収穫できるなど、山を育てる知恵が凝らされていたそうです。しかし、明治以降、燃料として木材を大規模に切り出し、また第二次世界大戦の時には政府の要求により木材を供出したりと、山が荒れた時代が続きました。

近年、日本の林業は産業として成立しているとは言いがたい状況で、他国に比べ価格が低いにもかかわらず、木が売れないことによって大規模な林家の方が何人も山林を手離しているそうです。これに対し、吉田さんは捨てられていた木を使ったり、ギターの薪にしたり、「木」が無駄にならないようさまざまな工夫をされています。

このプロジェクトに参加するまでは正直、森林に対する関心や知識は恥ずかしいほど薄く、少ないものでした。今回、実際に自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じたことで、当たり前すぎて私たちが気付いていない大切なことがたくさんあることを実感しました。この林業体験を通し、大紀町

情報共有と交流の場に
専の会 地区別教育懇談会

大学の教職員が各地に伺い、教育方針や大学の現況を説明する「専の会地区別教育懇談会」が、八月二十七日〜九月四日に、全国八会場（浜松・名古屋・四日市・津・名張・伊勢・神戸・福岡）で開催され、三九三名の保護者に「ご参加いただいた。

地区別教育懇談会ではどの会場でも「全体会」「個別懇談会」「懇親会」が行われ、懇談会「懇親会」が行われた。大学教職員が各地に伺い、教育方針や大学の現況や就職状況などの説明がなされた。「個別懇談会」は各学科の教員が保護者にマンツーマンで履修状況や成績を説明するもので、将来の進路に対する希望やその実現の可能性が具体的に話し合われた。また、それと並行して、就職担当者による相談ブースや卒業生との懇談ブース（浜松・伊勢のみ）も設けられ、より現実的

な進路相談をすることもできた。「懇親会」は立食パーティ形式で行われ、教員と保護者、また保護者同士、親交を深めていた。本学の保護者会「専の会」の名称は学生を「花」に、保護者を花を支える「専」に例えたことに由来する。学生の開花・結実を保護者・教職員双方で支えるため、今後も、専の会の行事にぜひご参加いただきたい。

社会教育実践交流広場
地域と関わる学生に三団体が出展

三重県内の大学等の学生が地域で実践している

社会教育について情報発信する機会を設けようと、三重県教育委員会が八月二十四日に三重県総合文化センター・総合博物館MieMuで開催した平成二十八年社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」に本学から三団体が参加した。

「地域に貢献し、まちを元気にしたい」との熱い思いを持つ現代日本社会学科の学生（二十九名）を中心に活動を行っている「地域社会研究会」は自分たちが商品企画した「宇治山田の和紅茶」の活動を紹介します。試飲会も開き、和紅茶の魅力やさまざまな世代の人たちにアピールした。活気が少なく飲

みやすい「冷たくてもよさそう」などの貴重な意見も寄せられ、今後の展開として考えている「和紅茶のペットボトル化」にも取り入れていきたいと話した。

「皇學館みらい対話団」は壁面を一つのキャンパスに見立て、キーワードを散りばめた展示を作

成。それを見ながら来場者に気になるキーワードを選んでもらい、対話する趣向とした。「対話を通して成長できると思うから、がんばって」との言葉をかけていただくこともあり、有意義な機会となったようだ。

教育学科・幼児教育コースによる子育て支援活動「びよびよ」は活動目的や内容について発表。ポスター展示では幼児教育の実践例、具体的な活動の写真を多く取り入れた作品を使い、教育関係者や地域の方々に説明を行った。メンバーの一人はこうした催しに参加することで他大学の状況や自分たちの活動を客観的に振り返るよい体験になったと語り、今後の活動のさらなる充実をめ

ざす決意の場となった。

手作業での稲刈りに励む学生たち



酒米「神の穂」を収穫

本学・明和町「日本酒プロジェクト」

学園報六十二号で既報の通り、本学と明和町が中心となって立ち上げた「地方創生産学官連携日本酒プロジェクト」。第一弾として五月に田植えした酒米「神の穂」が無事に収穫の時を迎え、九月十七日、学生と関係者が刈取りを行った。

生産から流通までさまざまな工程に関わり、六次産業化への実践を学びたいと参加した高尾智大君（国史三年）は「自分たちが植えた苗がこうして実り、これから酒になっていくと思うとわくわくするし、モチベーションも上がる。今回、地域や

手作業での稲刈りに励む学生たち

「男性保育」を
テーマに学生語る



伊勢市男女共同参画都市宣言10周年記念イベント

平成十八年の「男女共同参画都市宣言」から十年を迎えるにあたり、改めて男女共同参画について考え、今後に活用しようとして伊勢市が十周年記念イベントを七月三十一日、伊勢市生涯学習センターいせトピアにおいて開催。菊池桃子さんの講演会や「仕事」「防災」「介護」等をテーマにした分科会とその報告などが行われた。

本学からは教育学科四年の大西洋輔君、工門優斗君、岡本祐樹君が分科会「若者」の実行委員として伊勢市より選出。準備に携わったほか、「男性保育者の未来を考える」とのテーマで幼児教育・保育の現場への男性の参入について、保育士・幼稚園教諭をめざす立場から意見を述べた。当日、工門君は「男性保育者の概要」岡本君は「保育士の社会的地位、処遇」について報告。現場の声として高田保育園保育士の河俣聡氏、三重大学教育学部附属幼稚園教諭の辻彰士氏が現状を語り、後半は会場全体でディスカッションが行われた。



和紅茶の魅力やさまざまな世代の人たちにアピールした。活気が少なく飲む



稲の結び方を習う

米の結び方を習う

米の結び方を習う



味噌汁やおむすび、香良洲梨などの地物食材が楽しめ、地元の味を満喫した1日となった

地元の食材を知ろう・作ろう・食べよう プロジェクト

「第1回 クッキング」開催

地元産食材への関心度を高め利用拡大を図ることを目的に立ち上げられた「地元の食材を知ろう・作ろう・食べようプロジェクト」。その第一回クッキングが八月二十日、教育学部 駒田聡子教授指導のもと学生が中心となって開催され、参加者六十七名が地元の味を楽しんだ。

鯉節削りに親子で四苦八苦

本プロジェクトは地域の子どもたちに地元産食材の魅力に気付く、関心を高めてほしいと、食育研究部会の学生が中心となって立ち上げたもの。その「第二回クッキング」が八月二十日、本学で開催され、鈴鹿や津など県内各地の園児、小学生とその保護者ら計六十七名が参加した。

参加者から賛同の声

終了後のアンケートには、「家で過ごす子どもが最後まで頑張った」「スタッフが優しく、地産地消の簡単でおいしい料理を期待している」などプロジェクトを応援する声が多く寄せられた。さらに、鯉節を家でも使いたい「魚離れが問題視されているが、このような企画がありよかった」とのコメントもあり、本プロジェクトの意義が確実に伝わったようだ。代表の岡村麻里矢さん(教育三年)は「思っていたよりたくさんの方に参加していただき、また、真剣な顔、おいしいと言いながら食べる表情など、子どものいろんな顔を見るのができ、イベントを開いた甲斐があった」。

またスタッフも初の運営ということで不便をおかけした面もあったが、終始子どもたちの笑顔と保護者の温かいまなざしが見られ、試食時には皆ささんから「おいしい!」の声があがった。最後に子どもたち全員に学生が手作りした「修了証」が渡されると、どの子どもも喜んでいった。

し、冬に行われるプロジェクトではより良い活動になるよう努めていきたい」と手応えを感じた様子で話していた。

津で「皇學館DAY」を開催

九月十九日の敬老の日、三重県総合文化センターにて「皇學館DAY」が開催され、大学・高等学校・中学校合同の学校説明・相談会と皇學館高等学校吹奏楽部による第九回定期演奏会(津会場)が行われた。

疑問を徹底解消

大・高・中合同説明・相談会

九月十九日午後二時より、三重県総合文化センター内・三重県文化会館大ホールのロビーにて実施された大学・高等学校・中学校合同の学校説明・相談会。台風一六号の影響で来場数は未知数だったが、定期演奏会にあわせ相談にいられた方もおり、有意義な時間となった。

津市内に住むという女性(中学三年)のご息女は進路相談に訪れたと言



個別に丁寧な説明が行われた

地域に密着した全国初の 「大学生レストラン」 がオープン!



九月二十日、皇學館大学倉庫会館二階食堂に「大学生レストラン」がオープン。早くも学生たちの人気を集めている。このレストランがめざすのは①学生の食環境の充実、②新しい学びの場の提供、③地域社会との連携等の実現だ。①については高校生レストラン「まこの店」で有名な相可高校食物調理科の村林新吾先生が料理を監修。調理は相可



「高校生レストラン」の立役者で、地域づくりのスペシャリストでもある岸川政之特命教授が企画

高校OBが運営する相可フードネット「せんばいの店」と、数多くの学食や社食などを運営する魚国総本社が行う。②は本学学生が大学生レストランをステージに、いろいろな企画やイベント、実習・研究現場として活用する。③は地域の食材を使用した食イベントなどを通して地域

を知り、地域社会との連携をとり、地域と密着した大学生レストランの運営をめざす。さっそくこれまでの食堂にない新しい取組みとして「1の日飯」が登場。これは、毎月1・11・21・31日と1の付く日はライスをおかわり自由にするというもので、本学の卒業生などから米を寄付していただいたことにより実現した。学食関係者以外の人も参画できる全国初の大学生レストラン。今後の展開に注目だ。



左奥から時計回りに、丼セット 400円、ボリュームセット 450円、おふくろ定食 400円、ヘルシーセット 400円

初の津公演、鳴り止まぬ拍手

皇學館高等学校吹奏楽部第九回定期演奏会が九月十八日(伊勢公演)、十九日津公演の両日、無事に催され、のべ三千人

がある皇學館高校を娘に勧めたいと思い、今日は相談に伺った」と話した。教育学科志望の松阪市内の男子高校生はご両親とともに来場。神道やカリキュラムについて一時間近く熱心に話し込み、「丁寧に説明してくれたのですべての疑問が払拭できよかった。きめ細やかなサポート体制であることもよくわかった。ぜひ合格して教員をめざしたい」と笑顔で話した。

公演は途中休憩をはさむ二部構成。シンフォニーエタ第二番 祈りの鐘「華麗なる舞曲」など大会やコンクールで演奏した思い入れのある五曲を選んだI部は一体感のある息の合った演奏を披露。とくに「モンタニヤールの詩」は部員総勢二三名による迫力に満ちたサウンドで聴く者を圧倒し



上/伸び伸びと成長してほしいとの願いが込められた若葉色のユニフォームを身に付け、演奏する部員たち
下/会場からは自然に拍手がこぼれ出た

た。II部は「宇宙戦艦ヤマト」や「スーパーマン」など誰もが一度は耳にしたことのあるアニメソングやヒット曲で構成。輝く!日本レコード大賞メドレーでは北島三郎さんや松田聖子さん、ジュディオングさんといった昭和を彩った歌手を模した部員が登場し、曲に合わせてパフォーマンスするなど会場を大いに沸か

音色に染み出る部風

津市内中学校吹奏楽部の女子生徒は「音色が綺麗なうえピタリと揃っていて、部員同士の仲の良さが音に表れていた」と話し、尾鷲から一家四人で訪れたという家族連れ

は「魅せられて」で登壇した人全員が衣装を広げる演出にびっくりした。すぐく楽しめた」と笑顔で語った。ご息女が同吹奏楽部員という四日市市在住の女性は「優しい先輩たちに囲まれてとても楽しそうに通っている。今日の演奏は部員たちの一生懸命さがひしひしと伝わってきて感動した」と目を潤ませながら話した。

顧問の前川幸生先生は「生徒たちには困っている人がいたら手を差し伸べる、そういう人でないといふ演奏はできないよと日頃から言っているが、本当に優しく気遣いのできる子ばかり。彼らの成長を感じながら、共に高みをめざしていきたい」と語る。なお、十月には中部日本吹奏楽コンクール本大会への出場が決まっている。今後のさらなる飛躍に期待したい。

微笑みの国、タイ

児玉先生ゼミ

コミュニケーション学科3年 赤塚 未来

私たちはタイで5日間のフィールドワークを行った。事前に宗教や歴史、観光地などを調べ、タイの知識を少し身に付けて行ったが、現地を訪れると想像以上に都会で驚いた。都会といっても東京とは違い、高層ビルやショッピングモール、高級ホテルが立ち並ぶなかに、民家や屋台が並んでおり、都会と田舎が混ざっているようで不思議な感覚をもった。

バンコクを拠点に王宮、エメラルド寺院、暁の寺、涅槃寺、アユタヤ遺跡などを訪問した。なかでも一番印象に残った場所は、菩提樹の木に覆われた仏頭のあるアユタヤ遺跡のワット・マハータートである。

仏頭は菩提樹に埋め込んだのではなく、仏頭があったところに自然に木が覆ったもので、生きているようで不思議であった。また、菩提樹の生命力と当時のビルマによる攻撃で切り落とされた仏頭の姿がとても神秘的であった。その他にも、象に乗ったり、運河沿いの水上マーケットを訪れたり、タイでしかできない経験をした。象は、タイではヒンドゥー教の影響もあり神のように大切にされ、象の形をした植木やオブジェをよく目にした。「微笑みの国」と呼ばれるタイでは、みな優しい。時には、日本語で話しかけられることもあり、ショッピングモールに行くと日本のアイドル文化を取り入れたカフェがあったり、日本の歌がBGMとして流れていたりして、日本の文化が注目されていることも感じた。

このフィールドワークを通してタイの国柄や歴史



ワット・プラ・ケオ王宮

ある遺跡、食文化に触れることができたと同時に、異国を知ることによって日本の魅力を再認識することができた。このような機会は貴重であり、タイに限らず他の国にも行きたいと思う。

び、大いに楽しむ

歴史の一端に触れた貴重な体験

橋本ゼミ

現代日本社会学科3年 吉川 佳佑

9月12日から15日にかけて、東京へ行ってきた。初日は靖国神社を参拝し、遊就館を見学した。靖国神社の起源は、明治2年6月29日に建てられた東京招魂社に遡るという。近代的統一国家として生まれ変わろうとする歴史的な大変革の過程にあった当時の日本は、一方において国内の避けることのできない戦いを生み、近代国家建設のために尽力した人たちが大勢犠牲となった。そこで明治天皇は、国家のために命を捧げられた人々の霊を慰め、事績を後世に伝えるため、招魂社を創設された。

この靖国神社には、国を守るために戦った軍人ばかりでなく、明治維新の先駆けとなった坂本龍馬、

吉田松陰、高杉晋作といった歴史的著名人や従軍看護婦、文官、民間の方も祀られている。およそ246万6千柱の方々が祀られているが、未だ戦争で命を落とされたが、名前等がわからず祀られていない方もいるようだ。そういった方々が一刻も早くここ靖国神社に祀られ、名を残せる日が来ることを願うばかりだ。

2日目は旧岩崎庭園、東京国立博物館、両国国技館を見学した。三菱財閥の創設者であった岩崎弥太郎が住んでいた旧岩崎庭園だが、洋館の外観から圧倒されるものがあった。天井にはペルシャ刺繍が施され、床タイルもイスラム風のデザインと近代建築の総結集ともいえるべき造りであった。対して、そこから続く和館は書院造を基調とした建築で、弥太郎もここで生活していたようだ。庭も驚くほど広く、和館から見る景色も素晴らしかったが、当日があい



靖国神社を参拝

にくの雨だったことが残念だった。

その後も、世田谷文学館や赤坂迎賓館等を見学することができた。時間の都合でゆっくり見ることができなかった場所もあって残念ではあったが、普段見ることができないような場所を実際に見ることができて、本当に良かったと思う。

11月1日～7日は



今年で58回目を迎える「教育・文化週間」。期間中は全国各地で体験活動や公開講座、美術館・博物館の無料開放など、さまざまなイベントが開催されます。興味のあるイベントに足を運び、学ぶ楽しみ、芸術に触れる喜びを味わってみませんか？

教育・文化週間のサイトアドレス

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunka/

倉陵祭開催

10/28(金)～30(日)

アーティストライブ

10/29(土) 開場●17:00 開演●18:00

会場●皇學館大学 記念講堂

(入場無料・要整理券) ※整理券配布 9:00～(本部テント前)



WHITE JAMは、SHIROSE、NIKKI、GASHIMAからなる3人組シンガーソングライター。代表曲「ウソツキ」はiTunes総合チャートで堂々の1位を獲得。2016年2月24日に発売された、4thシングル「咲かないで」は、公開中の映画『泣き虫ピエロの結婚式』の主題歌となっている。また、現在ベストアルバムが発売されている。

3人組シンガーソングライター「WHITE JAM」のライブに外交ジャーナリストで作家でもある手嶋龍一氏の講演など、見逃せないイベントがいっぱい！ご家族や友人と一緒に、ぜひお越しください。

講演会

10/30(日)

(聴講無料・予約不要)

開場●9:30 開演●10:30(終了予定 12:00)

会場●皇學館大学 記念講堂

「激動の世紀の行方を読み解く～中ロの動向と日米同盟～」

講師●手嶋龍一氏



元NHKワシントン支局長で、大統領をはじめ重要閣僚の単独インタビューを数多くこなし、9.11同時多発テロ事件の際は、11日間昼夜連続の中継放送を担った方です。平成17年にNHKから独立し、小説『ウルトラ・ダラー』を発表。姉妹篇の『スギハラ・ダラー』とあわせて50万部の大ヒットとなり、その後に著したノンフィクション作品もベストセラーになっています。テレビでも、報道番組を中心に外交問題の解説者としてご活躍されています。

問合せ 学生支援部 学生担当 ☎0596-22-6317

感性を磨くことも大事

河野先生ゼミ

神道学科 3 年 湯 下 直 明

ゼミ旅行は、沖縄の文化を肌で感じる事ができるものだった。

1 日目は波上宮に正式参拝を行った。土砂降りの雨だったが、宮司様から、「沖縄は本土から離れた土地だが、祭る心や文化は同じ。また、雨乞いの儀式はあっても、晴れを求める儀式というのはほほない」など貴重な話を伺うことができた。

2 日目は朝から中城城跡を見学し、昼からは大石林山、今帰仁城跡を巡った。今帰仁城跡には博物館もあり、農耕の道具や生活品など、自分たちの知っているものと少し違う形であることに興味を持っ

た。大石林山は実際に自分の足で登り、悟空石、生まれ変わりの石、石林の壁などさまざまな伝承がある石を見てきた。所々に残る拝所も見つけることができた。

3 日目は美ら海水族館、また夕方には海にて泳ぐこともできた。

4 日目は琉球王国の政治の中心であった首里城、琉球神話聖地の久高島へ。人の手が加えられていない自然溢れる島と海はとても綺麗で、自転車での散策を満喫した。

ゼミ旅行で感じたことは、フィールドワークの重要さだ。城跡や首里城はもちろん、久高島や大石林山の自然など、写真や映像で見たことはあっても、実際に現場で確認するとその場所の歴史だけでなく、空気を自分の目や耳、体で感じる事ができる。



沖縄・波上宮で正式参拝

知識のみではなく、自分自身の感性を磨くことも、学問や宗教を学ぶ上では非常に重要だと感じた旅であった。

フィールドワーク報告記

秋学期のフィールドワークが実施され、国内組・海外組ともに充実した学びのときを過ごした。現地で自らの五感を研ぎ澄ませ得たものは心身に深く刻み込まれ、座学では得られない感動を味わったようだ。以下に学生たちの感想を紹介する。

大いに学

もっと中国語で話せたら！

松下先生ゼミ

国文学科 3 年 岩 崎 雅 子

私たち松下ゼミでは漢文学を専攻していることから、行き先は中国の天津・泰安・曲阜であった。9 月 6 日から 9 日までの 4 日間で、天津市内ではイタ



中国・天津にて。ゼミのみんなと

リア風情街・津湾広場・古文化街を見て回り、天津海河の遊覧船を体験したほか、山東省に移動してからは泰安の岱廟や曲阜の尼山・孔廟・孟子廟などさまざまな場所を見て回った。

今回のフィールドワークで印象に残っていることは、店で中国人女性に話しかけられた時のことだ。その女性は「こんばんは」と日本語で声をかけてきた。私は今年の春、上海に 1 カ月間語学留学に行き中国語の勉強をしていたので良い機会だと思い、中国語で女性と簡単な会話をした。自分の中国語が通じるか不安だったが、笑顔で答えてくれて嬉しく思った。その反面、簡単な会話だけでなくもっと流暢に会話したいと思い、これからの勉強の励みになった。また旅行中の 4 日間、ゼミ生同士で行動し話す時間が多くあったため、前よりも仲良くなれて改めてこのゼミに入って良かったと思った。

実際に中国に行くことで日本にいただけでは見え

なかった中国が見え、良い部分やそうでない部分などさまざまなことを感じる事ができた。さらに外側から日本を見ることで今まで感じなかった日本の良さも感じる事ができた。二度目の中国だが新たな発見が多くあり、まだまだ知らないことだらけであった。これからも中国の文化・歴史・言葉を勉強し、また中国に行きたいと思う。

体験の大切さを実感

多田先生ゼミ

国史学科 3 年 西 村 千 夏

多田先生率いる中世史ゼミは諏訪大社、松本城、川中島古戦場、上田城、富岡製糸場、日光東照宮、東京国立博物館、鎌倉市内、小田原城、箱根神社、久能山東照宮を見学、参拝した。4 泊 5 日という長期間のフィールドワークであったが、私個人として



長野・松本城にて

はとても楽しく、短く感じられる旅行だった。私は小学校の教員をめざしているので、話のネタになることがたくさん見つかることを願っていた。

実際に見学して思ったことは、自分の目で見て、体験することの大切さである。松本城に行った時、とくにそう感じた。松本城の外見はとても立派で、圧倒された。しかし、城内はとても簡素で、階段も急であった。城内が外見に比べて簡素なのは、城が戦いのために作られたことを如実に示していると多田先生が話してくださった。座学や書物だけでは得ることができないさまざまなことを、フィールドワークを通じて学び、感じる事ができた。

「大いに学び、大いに楽しもう」と多田先生がおっしゃっていた。実際、楽しいと思うから、その分、学んで得るものも大きかったように思う。こうした学び、楽しむ大切さを、子どもたちに伝えたい。

また、フィールドワークではゼミ生との仲が深まった気がする。本当に有意義な旅行であった。この思い出は、一生忘れられないものになると思う。

平成28年度 フィールドワーク日程一覧

学科	引率教員	目的地・方面	日 程
国 内			
神道	加茂 正典	広島・島根・山口・鳥取	9/12(月)～15(木)
	河野 訓	沖縄本島	9/11(日)～15(木)
	菅野 覚明 板東 洋介	沖縄	9/12(月)～15(木)
	松本 丘	九州方面	9/15(木)～17(土)
国文	大島 信生	鳥取・島根	9/12(月)～15(木)
	齋藤 平	岩手県	9/12(月)～15(木)
	高倉 一紀	岐阜・長野・群馬・山梨	9/7(水)～10(土)
	中川 照将	京都	9/12(月)～14(水)
	深津 睦夫	伊豆・鎌倉・東京	9/12(月)～15(木)
	岡野 裕行	東京方面	9/5(月)～9(金)
国史	小堀 洋平	東京	9/12(月)～15(木)
	上野 秀治	岡山・松山・西予	9/12(月)～15(木)
	岡田 登	岡山県・島根県	9/8(木)～12(月)
	岡野 友彦	九州(福岡・長崎)	9/15(木)～18(日)
	松浦 光修	鹿児島・山口	9/14(水)～16(金)
	多田 實道	中部・関東方面	9/12(月)～16(金)
現日	富永 健	東京	9/12(月)～15(木)
	橋本 雅之	東京	9/12(月)～15(木)
	岩崎 正彌	東京	9/5(月)～8(木)

海 外			
国文	上小倉一志 松下 道信	中国(泰安・曲阜)	9/6(火)～9(金)
国史	田浦 雅徳 谷口 裕信 堀内 淳一	中国(上海)	9/8(木)～12(月)
コミ	児玉 玲子 山田やす子 張 磊	タイ	9/8(木)～12(月)
	外山 秀一 芳賀 康朗 桐村 喬 川島 一晃	グアム	9/4(日)～8(木)
	豊住 誠 川村 一代 クリストファー	シンガポール	9/9(金)～13(火)
現日	筒井 琢磨 藤井 恭子	台湾	9/9(金)～12(月)

※木村助教、鶴沼教授、笠原教授、新田教授、山路教授、榎本准教授、遠藤(司)准教授、関根准教授、灰谷助教と教育学部については、2～3月実施予定。

意識が変化し意欲が向上

第十五回オーストラリア語学研修報告

夏休み中の七月二十五日から八月七日にかけての二週間、オーストラリア・メルボルンにおいて語学研修を行った。

姉妹校であるローズヒル・セカンダリー・カレッジとの交流も今年で十五年目。今年は本校から十名の生徒たちが参加した。生徒たちは本校の代表としてさまざまな場面で積極的に活動し、ローズヒルの先生方やホストファミリーから非常に高い評価を受けた。



すっかり現地にとけ込んでいる生徒たち

帰国後、生徒たちの感想で一番多かったのは、自分の英語力のなさを悔い、英語学習への取り組み方を変えたというものである。次に多かったのは将来の進路を考えるきっかけになったというもの。ある生徒はこの研修を終えて、自分はやはり英語を使う職に就きたいと再認識できた、と記した。

この語学研修は参加した多くの生徒たちの意識を変える。受動的だった英語学習は能動的なものになり、漠然としていた自分の将来についても、自らの意思で具体的に考えるようになる。

今回の語学研修生たちも、日本にいただけでは得がたい意識の変化を実感したに違いない。この経験を糧に、自分の夢に向かって努力してくれると確信している。

国際交流担当 角屋重文

校友会立候補者全員が信任

七月四日に行われた校友会役員選挙で立候補者全員が信任された。以下に三名の抱負を紹介する。

行事を完成させる大変さを実感

総務委員長 山本 瑠 香

七月に校友会総務委員長に就いてから早や二カ月。校友会役員になってみて自分たちが中心となって一から考え、ひとつの行事を完成させる大変さを実感しています。けれども時間をかけた分、成功したときの達成感はとても大きいと思います。

先輩方の姿勢と心構えを受け継いで

総務副委員長 志村 日 向

校友会役員になって感じたことがいくつかありました。一つは今までの校友会役員の

方々が自分の知らないところでこんなにも学校や行事のために動いてくれたのかと



左から、志村君、山本さん、鈴木さん

いうことです。だからこそ自分たちはそんな先輩方を見習

裏方が担う責任と大変さを実感

総務副委員長 鈴木 優 花

総務副委員長になり、その責任の重さや行事の準備の大変さを感じています。私は今まで役員の経験をしたことがなく戸惑うことも多いですが、改めて裏方の役割の大切さと大変さを実感しました。今後の行事を成功させていく

自らの判断で命を確実に守る

中高合同・地震避難訓練

八月二十九日の高校の始業日に合わせ、中学校・高校合同の地震避難訓練が実施された。今回の訓練は授業中に震度五、六程度の東海地震が発生した場合を想定して行われた。十時四十分

に合わせ、中学校・高校合同の地震避難訓練が実施された。今回の訓練は授業中に震度五、六程度の東海地震が発生した場合を想定して行われた。十時四十分

に合わせ、中学校・高校合同の地震避難訓練が実施された。今回の訓練は授業中に震度五、六程度の東海地震が発生した場合を想定して行われた。十時四十分

に合わせ、中学校・高校合同の地震避難訓練が実施された。今回の訓練は授業中に震度五、六程度の東海地震が発生した場合を想定して行われた。十時四十分

懸命に伝えようとする姿が印象的

第十一回皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテスト

八月二十日に第十一回皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテストが開催され、小学生の部は五十二名、中学生の部は二十七名と、県内外からたくさん

の参加をいただいた。小学生の部ビギナーは「Tea (お茶)」、アドバンストは「The Olympics (オリンピック)」をテーマに英文を暗唱。中学生の部では「My Treasure (私の宝物)」、「World Heritage Sites (世界遺産)」、「Ise-Shima (伊勢志摩)」から一つを選びスピーチ

を行った。リオデジャネイロ五輪や伊勢志摩サミットなどタイムリーな話題にいずれのスピーチも熱を帯び、表情豊かに一生懸命に伝えようとする姿が印象的だった。結果は、小学生の部では「ベギナー」坂本暖奈さん(早修小学校・アドバンスト)山下空さん(暁小学校)、中学生の部では前川聖葵さん(セントヨゼフ)がそれぞれ優勝に輝いた。

どの児童、生徒もこの日のために何度も一生懸命に練習を重ねてきたこと、スピーチもたてなみえ強い思いが伝わってきた。このコンテストをそれぞれにとってのチャレンジの場とし、これから英語でも日本語でもプレゼンテーションスキルをさらに磨いていってもらいたい。

小学生の部ビギナーは「Tea (お茶)」、アドバンストは「The Olympics (オリンピック)」をテーマに英文を暗唱。中学生の部では「My Treasure (私の宝物)」、「World Heritage Sites (世界遺産)」、「Ise-Shima (伊勢志摩)」から一つを選びスピーチ



賞状を手に喜びの表情を受かべる小学生の部入賞者(上)と中学生の部入賞者(下)

懸命に伝えようとする姿が印象的だった。結果は、小学生の部では「ベギナー」坂本暖奈さん(早修小学校・アドバンスト)山下空さん(暁小学校)、中学生の部では前川聖葵さん(セントヨゼフ)がそれぞれ優勝に輝いた。

英語科 小林誠治

皇中NEWS



盛り上がったクラス対抗リレー

九月二十八日に行われた、私たち三年生にとって最後の

成長を感じた最後の体育大会

体育大会。みんな「優勝」という一つの目標に向かってたくさん練習を重ねました。雨天のため開催が二度延期になったものの、当日は曇り空の下、始まりました。その中で私は自分たち三年生がとて

て成長したと実感することができました。一つ目はみんなの「きずな」。各自が互いを応援し合

なれたと思います。三年生最後の体育大会は私達にとって忘れることのできない大切な日になりました。



優勝した3年A組

三年A組 山下麻衣



謝辞を述べる
佐古理事長

神社関係者懇談会・協議員会が九月十七日、鳥羽国際ホテルにて合同開催され、日頃より多大なご支援をいただいている神社界並びに本学関係者一四一名が一堂に会した。開宴に先立ち佐古一列理事長より、神社関係者の方々には平素より格別のご支援を賜っていること、また、教学振興会へのご理解とご協力に對し、深い感謝の意が表され、平成二十七年事業の報告を行った。続いて、清水潔学長が学園の現況を報告。地域連携への積極的な取り組みとして、「地（知）の拠点整備事業」による教育開発を展開し、地方創成に貢献している成果を上げている状況や奉職・就職支援等について説明した。

神社関係者懇談会・協議員会を開催

実際の学生生活を模擬体験 第3回オープンキャンパス



実践的で具体的な内容が好評を得た第3回オープンキャンパス

八月七日、晴天のもと第三回オープンキャンパスが開催され、高校生やその保護者たち九六八名が来場した。



AO対策の模擬講義の様子

「学び」体験DAYと題し催された今回はその名の通り学科ごとの体験型プログラムのほか、AO対策模擬講義、キャンパスツアー、大学生活体験談、個別相談コーナー、学食体験などキャンパスライフをまるごと疑似体験できる内容となった。参加者からも「大学生活体験談では大学生のリアルな生活を知ることがで

八月十八日から二十三日にかけて、教員免許状更新講習を伊勢会場及び四日市会場で開催した。五日間三十時間に及ぶ講習は二八九名が受講。三重県のみならず、東京、新潟、愛知、京都、大阪、奈良、兵庫、福岡など県外からの受講者もあった。平成二十一年四月に教

県内外から二八九名が受講

教員免許状更新講習

員免許更新制が導入されたことにより、教員免許状の有効期限を十年とし、更新するには指定の期間に三十時間以上の講習を受講し修了することが必須となった。本学での開講は今年で八回目。本年度から文科省の通達により講習の枠組みが一部変更になり、五日間

のうちの一日は必修領域として「国の教育政策・世界の教育の動向・教職についての省察・子どもの変化の理解」一日は選択必修領域として「法令改正・危機管理 教育相談・進路指導・英語教育」、後半の三日間では選択領域として「伝統と文化の理解・道徳教育・教科内容

の充実」をテーマに最新の教育事情を踏まえ、直面している教育課題や皇學館大学の特色、地域性に配慮した内容も取り入れた講習が行われた。講師陣は、本学教員の他、著名な外部講師も担当した。

講習後、受講者から「どの領域においても自分自身の考え方をより再認識できた」「九月から実際に授業で使えるもの、大和心など多岐にわたる研修を用意いただきありがたかった」「卒業生ではない



県外からも多数受講

が、皇學館で受講し本当に良かった」「また機会があれば講演等で聞かせてもらいたい」「スタッフの運営がとてもスムーズですばらしかった」等、感想をいただいた。

教職支援担当

中・高・大のつながりを体感

中高合同 オープンスクール開催



上/賑わうイベント広場
下/在校生による紹介

本年度の第一回オープンスクールは九月三日に高校が単独開催、中学校は翌四日に「皇學館中学校・高等学校オープンスクール」として中高合同で開催した。今回は皇學館大学記念講堂をメイン会場とし、また高校の一教室を大学説明会場とし



九月三日の高校単独開催は司会を務めた鈴木優花さん（高校二年）の進行でスタート。まず上村桂一校長の挨拶に始まり、生徒代表の山本瑠香さん（高校二年）の歓迎の言葉の後、入試担当者から学校の取組みやコース、入試の概要について説明がなされ

た。続いて志村日向君（高校二年）が学校生活を紹介。その後、現在「三重県吹奏楽コンクール」において四連覇中の吹奏楽部による歓迎コンサートが開催され、学食体験、高

校施設見学、クラブ見学へと進んだ。

九月四日の中高合同開催では校長挨拶、高校の説明の後、宇城幹土君、江藤朋華さん（ともに中学校三年）による学校紹介、そして中学校入試担当者による入試説明がなされた。休憩をはさみ、参加した中学生は高校施設見学など前日と同じ日程で進行。小学生は学食体験、体験授業、部活体験などで本校を楽しんだ。ゴードン先生による英語体験授業「英語で世界へ」

ではタブレット端末や電子黒板機能付きプロジェクトアをを使い、各国の特徴的な食べ物や名所をヒントとした国名当てクイズを実施。四グループに分かれた小学生が国名をタブレットにアルファベットでつづり、送信ボタンをタップ。教室スクリーンには各グループの解答が分割画面で提示され、テレビ番組でよく観

る風景が繰り広げられた。また、両日とも午後からはかき氷やアイスクリム、ポップコーン、家庭部製作のクッキーなどが無料で提供される「イベント広場」が設けられ、晩夏の暑い時間を心地よく過ごす人々で賑わった。今後も中高それぞれにオープンスクールを企画しており、さらに多くの参加を期待している。

高 校

第3回 オープンスクール

11月13日(日) 10:00~

●学校・入試説明 ●校舎見学 ●高等学校吹奏楽ミニコンサート ●学食体験 ●クラブ見学(自由) など

中学校

授業公開デー2016
~皇學館を知ろう~

11月5日(土) 9:30~12:00 参加無料・予約不要

●在校生授業公開 ●学校・入試説明 など

第2回 オープンスクール2016
~皇學館で学ぼう~

11月27日(日) 9:30~12:00 参加無料・要予約

●入試対策授業 ●体験授業 ●学校・入試説明 など

本校の特長であるICT教育、アクティブラーニング、グローバル教育等、実際の教室をぜひご体感ください。

卒業生奮闘中！

ふるいち ひろこ ジェトロ NY リサーチ・米国中南米政治経済調査員
古市 裕子さん NYマーケティング・ビジネス・アクション社 代表
国文学科 第25期(平成2年3月)卒



ニューヨークをベースにビジネスの拡大を考える日本の中小企業を政府・民間の両面から支援したい。そう一念発起し、昨年、NYマーケティング・ビジネス・アクション社を設立しました。十七年間務めたジェトロ(独立行政法人日本貿易振興機構)NYにも軸足を置きつつ、当社においては経営者向けのセミナーを開いたりビジネス情報や専門家人脈を紹介したりと、きめ細かいサポート事業を展開しています。国文学科出身の私がアメリカで起業：不思議な導きです。大学卒業後、名古屋にあるNPO政府団体でアジアの子どものための識字教育支援に携わりました。しかし、もっと根本的なところから途上国支援に関わりたいたと、国連職員をめざします。推薦状には修士号が必要のため、渡米。ニューヨーク市立大学の大学院に通う傍ら、小遣い稼ぎにアルバイトを始めたのがジェトロとの縁の始まりです。修士課程修了後ジェトロに就職し、その後、念願叶

い国連ユニセフに入れることになったのですが、九月十一日、アメリカ同時多発テロ事件が発生。私が就くはずだったポストそのものがなくなり、再びジェトロで働く道を選びました。今、日本の若い人を見て感じるのは、元気のなさ。一歩踏み出す前から失敗を恐れているような。でも、何ごとも始めてみないことには向き不向きさえわかりません。やってみて違ったら方向転換すればいいんです。まずは行動を、と声を大にしていきたいですね。私にできることがあれば連絡をください。本気の相談には全力で応えます。人生は本当に人との縁が大事。私ひとりの力ではこうして会社を立ち上げることもできませんでした。そして縁を紡ぐに当たり大切なのが信頼関係です。時間を守る、礼儀を尽くす、誠実である。こうした社会人として心得ておくべき礼儀が身に付いたのは、皇學館大学で薫育を受けたおかげだと、深く感謝しています。

イベント情報 (10~12月)

10月	22 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む 「素戔鳴尊の乱行と追放」 大島信生 (文学部教授)		
	23 日	431教室 第17回 高校生英語スピーチコンテスト	
11月	12 土	月例文化講座	431教室
	お伊勢さんとゆたかな海・山 近藤玲介 (教育開発センター准教授)		
	12 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	古事記を読み解く—神武天皇〜孝元天皇の段 「神武天皇 (中)」 白山芳太郎 (文学部教授)		
	17 木	国文学会講演会	431教室
	江戸川乱歩の作品と資料 落合孝幸 (立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員)		
	17 木	現代日本学会 記念講演 (第7回)	621教室
	「歴史的典籍NW事業の可能性と未来」 山本和明 (国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター副センター長 (特任教授))		
	19 土	研究開発推進センター史料編纂所古文書講座	佐川記念神道博物館講義室
	第3回 近世文書を読む 谷戸佑紀 (研究開発推進センター共同研究員)		
12月	10 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む 「素戔鳴尊の八岐大蛇退治」 大島信生 (文学部教授)		
	26 土	佐川記念神道博物館教養講座	佐川記念神道博物館講義室
	学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅲ「斎宮〜よみがえる「幻の宮」〜」 榎村寛之 (斎宮歴史博物館学芸員)		
	26 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 宮中のまつり・神社のまつり 松本 丘 (文学部教授)		
	10 土	月例文化講座	431教室
	ふるさとのお宝ことば 齊藤平 (教育開発センター長・文学部教授)		
	10 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	古事記を読み解く—神武天皇〜孝元天皇の段 「神武天皇 (下)」 白山芳太郎 (文学部教授)		
	17 土	研究開発推進センター神道研究所 公開学術シンポジウム	佐川記念神道博物館講義室
	『日本書紀』の享受について (仮) [司会] 大島信生 (文学部教授) [パネリスト] 遠藤慶太 (研究開発推進センター准教授)、是澤範三 (京都精華大学准教授)、原 克昭 (立教大学助教)		
	24 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	神道と仏教—神仏習合と明治維新の神仏分離— 「御嶽における神仏習合と神仏分離」 河野 訓 (文学部教授)		
	●各講座の詳細につきましては、 本学ホームページ にてご確認ください。 ●共催講座 (近鉄文化サロン阿倍野) のみ、 有料 です。お問い合わせは 近鉄文化サロン阿倍野 (☎06-6625-1771) へお願い致します。 ●佐川記念神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要です【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6471へお願い致します。 ●研究開発推進センター史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6462へお願い致します。 ●その他お問い合わせは、 皇學館大学地域連携推進室 (☎0596-22-8635) へお願い致します。		
	編集後記 「正しい情報は現場にある。」 日本人初の国連難民高等弁務官として活躍された緒方貞子さんの言葉です。この夏、子さんの学生たちが伊勢志摩共生学実習 (地域インターンシップ) やサークル活動の場で、各地域に足を運びました。そこには、机上の勉強だけでは得られなかった深い気付きや発見があったはず。彼らがこれらの経験を単なる「体験」で終わらせることなく、当事者意識を持って課題解決に取り組んでいくと期待しています。【企画部】		

大学生国際会議に本学から3名が参加



三重県・KIP (Knowledge Investment Programs) 共催 2016 大学生国際会議 in 三重

開会式にて記念撮影

大学生国際会議に参加したのは、留学生をはじめ全国から多くの学生が集まると聞き、地元三重県や伊勢市を広くPRできること、また、今後も地元での生活を考えている自分にとって多くのことを吸収できる絶好の機会になると考えたからだ。

実際、この四日間はこれまでの人生の中で最も濃密な時間だった。いちば

同世代との討論に刺激を受ける
現代日本社会学科四年 一路 侑 杜

また、今回の大学生国際会議には多くの留学生が参加しており、コミュニケーションの中心は英語だった。かろうじて聞き取ることができ程度の私の英語力では到底コミュニケーションを積極的に取ることができず、せっかくなの質問にもうまく回答できないことに悔しさともどかしさを感じた。日本で生きていく上で英語なんて必要ない

多様な価値観を受け入れる
国文学科四年 竹本 美穂

最終日には三重県に若者観光客を増やすための取り組みについて討議を行った。その際に、留学生から伊勢神宮に対する「美」の感覚は日本人独特

自分なりに感じたことは多く、今後の糧にしたいと考えている。

八月三十一日から九月三日にかけて大学生国際会議が開催され、東海三県の学生や留学生を中心に約八十名が集結。伊勢市や南伊勢町を舞台に討論や地場産業体験をし、交流を深めた。本学から一路侑杜君 (現日四年)、竹本美穂さん (国文四年)、坂井晴子さん (国史四年) の三名が参加した。



現地スタッフとランチミーティング

伊勢市に本社のあるクローバー電子株式様の協力により、八月二十一日から二十六日にかけてマレーシア現地法人 (現地法人名 A O B A) にて本学初の就労体験型海外インターンシップ (マレーシアプログラム) を実施。初年度は三名の学生が参加した。八月八日にクローバー電子 (株) ご担当者

マレーシアでは本学卒業生である駐在員の方のサポートを得て現地スタッフと一緒に取引先との打ち合せやランチミーティングに参加。社内のマネジメント会議にも出席するなど多彩な体験を通じて日系企業が異国で展開するビジネスの現場を体感した。英語が共通語とはいえ多国籍国家であるため英語が通じない従業員もおり、どのようにコ

平成28年度 海外インターンシップ マレーシアプログラム	
日程：平成28年 8月21日 (日)〜26日 (金) 於：クローバー電子 (株) マレーシア現地法人	
日次	月日
1	8/21
研修プログラム 関西国際空港よりマレーシア航空でクアラルンプールへ クアラルンプール空港より専用車にてホテルへ移動 (宿泊先：ホテル パンギア・トラジャヤ)	
2	8/22
終日、就労体験 ●社内見学と説明 ●現地スタッフに自己紹介 ●駐在員の指示による、現地スタッフへの確認作業等	
3	8/23
終日、就労体験 ●駐在員の指示による、現地スタッフへの確認作業等 ●現地スタッフとの懇談会 ●取引先への営業の同行 ●ランチミーティングへの参加	
4	8/24
終日、就労体験 ●現地スタッフと協力して工場内作業 ●マネジメント会議への出席 ●取引先への営業の同行 ●ランチミーティングへの参加 ●海外インターンシップの感想等のプレゼンテーション	
5	8/25
マレーシアの首都クアラルンプールにて異文化理解 王宮 (外観)、国立記念碑、独立広場、国立モスク、ツインタワー、現地商店等市場調査 マレーシア航空にて関西国際空港へ	
6	8/26
関西国際空港着	

ミユニケーションを取るのか苦労したようだ。しかし、現地スタッフと一緒に昼食を摂るなどして積極的に意思疎通を図り、工夫しながら課題をクリアしていく姿勢が見られた。以下に学生の感想を紹介する。
◆想像以上に経済発展していることが驚いた。
◆現地の人が皆さんとても温かく、壁を作らず自分から積極的に関わること、相手も気軽に接してくることに気付いた。
◆毎日英語を聞くうちに段々うまくなるコミュニケーションをとれるようになり、楽しめた。
◆うまく英語で説明できず、筆談で何とか伝えた。
◆マレーシアの魅力や歴史などたくさん知ることができていた。話を教えたことができた。
◆マレーシア人の優しさに触れ、よい経験ができた。また行ってみたい。



後列左から、網仲真美さん (国史4年)、大原魁刀君 (神道2年)、大塚清保君 (国史2年)。前列左から、西脇海太君 (国史2年)、野口剛さん、豆多真空君 (国文3年)

「俺がやる」予科練魂に触れて
零戦パイロット・野口剛さんに話を聞く (日本文化研究会)

八月二十日、日本文化研究会に所属する学生五名が第七二一海軍航空隊「神雷部隊」の零戦搭乗員だった野口剛さんに当時の貴重な話を伺った。海軍飛行予科練習生として十六歳で海軍に入隊した野口さんは昭和二十年三月、初の「神雷部隊」出撃に際し、戦闘機隊の一員としてこれを守衛。同月、第二〇三海軍航空隊に異動。築地 (福岡県) で終戦を迎えた。祖父が予科練生で同じ立場だった方の気持ちを知りたかったという網仲真美さん (国史四年) は入隊した理由を伺うと「まず国のため、そして家族のため」と答えてくださった。海軍予科練生の誇りや自尊心を感じた大変濃い時間だった。現代を生きている我々は何ができるのか自問自答しながら、同研究會委員長

十月二十九日から三十一日にかけて行われる倉陵祭では同研究會が野口さんの話をボスターや冊子等にまとめ、五三七教室にて展示する予定だ。

の豆多真空君 (国文三年) は「実際に特攻隊とともに戦った野口さんから「俺がやる」という犠牲的精神と能動的な態度が伝わった予科練魂の大切さを教わりました。平和な今だからこそ、世のため人のために、他の誰でもない俺がやるのだという気概をもって自らの道を歩みたいと思いました」と語った。